

令和6年度学校評価報告書

1 本年度の重点目標

- 1 学習指導（確かな学力の育成）
① 基礎・基本の定着確認と、生徒の思考・判断・表現力を高める授業実践により、確かな学力の向上を図る。
② 教育系ICTプラットフォームを活用しながら、生徒の興味関心を広げ、自学・自習の主体的学習による家庭学習習慣の確立を図る。
- 2 生徒指導（豊かな人間関係と社会的に自立する力の育成）
① 基本的生活習慣や規範意識の確立と実践により、事故や盗難、いじめ等のない安全安心な学校づくりに努める。
② 部活動、学校行事、生徒会活動、社会貢献活動等に積極挑戦させ、他を思いやる心、勤勉奉仕の精神を育み、共生社会に生きる生徒の資質を高める。
- 3 進路指導（主体的に進路を選択する態度の育成）
① 自己理解を深め、社会における自己の在り方・生き方を探究する「志教育」を推進することで、自己実現を諦めない強い意志を養う。
② 生徒の進路実現のために、3年間を見通した系統的・組織的な進路指導の推進に努めるとともに、全教員が最新の進路情報を取り入れる研修の機会を設ける。
- 4 保健衛生・安全教育・防災教育（命を守る力と共に支え合う心の育成）
① 心身の健康保持のため、積極的にSCやSSWと連携し、一人で抱え込まない体制を作る。
② 防災教育を通して日常の安全点検や避難訓練の充実を図り、地域社会と連携・対応できる学校を目指す。
- 5 働きがいのある学校づくり・職場環境づくり（風通しのよい職場環境づくりの推進）
① コミュニケーションを大切にし、報告・連絡・相談に基づく職員間の連携協力に努める。
② 校内・校外研修の充実により職員のスキルアップ・キャリアアップを目指すとともに、校務の円滑化・効率化を図り職員の多忙化解消に努める。

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	基礎・基本の定着	A	みやぎ学力状況調査の結果から、基礎・基本は概ね身に付いているといえるが、思考力を問う問題の正答率が低い。授業の中で単元毎の学習目標を生徒に示すことや思考問題・応用問題を積み重ねることで、基礎・基本の定着に加えて思考力を養っていく。	A	A
	授業の質の向上	B	生徒の授業理解度は、特に1年生で昨年度よりも低下している。ICTの活用にはばかり目を向けず、アナログとデジタルのバランスを上手くとりながら授業の質を向上していく。そのためにも教員間の情報交換を密に行い、授業研究を進める。	B	A
	家庭学習習慣の確立	C	家庭学習の時間は年々減少し、スマホ利用時間が年々増加している。スマホ利用については、家庭や他分掌の協力も得ながら指導していく必要がある。さらに、学習アプリや副教材のどこをどのくらいのペースで進めれば良いかなど、授業の中でより具体的なアドバイスをしていく。	B	B
学校関係者評価委員会における意見		基礎基本は身に付いているが思考力に課題があるとすれば、協働的な学びを充実させることが必要であるように思います。物理的な時間を要するが、他者の意見や考え方を学ぶことにより、思考力は高まると考えます。学習意欲（主体的に学習に取り組む態度）は学力の3要素の一つです。家庭学習時間が減少傾向にあることから、何よりも学習意欲を高めるための工夫が必要と考えます。授業の質の向上はもとより、体系的・系統的なキャリア教育に力を入れるべきと考えます。現在の学びと将来の進路との関連を生徒に意識づけることが大切であり、まずは生徒に正しい自己理解を得させることが大切であると考えます。個人面談等を更に充実し、しっかり目標を定めさせ主体的に学習に取り組ませてほしいと思います。			

生徒指導	基本的生活習慣の確立	B	遅刻をする生徒が1,757名(昨年同期2,179)で昨年同様に高い水準になっている。学校生活に悩みや不安を抱えている生徒が増えている。家庭やSCなどと連携を図りながら対応する。	A	B
	規範意識の醸成	A	いじめ認知が6件(昨年同期7件)あったが、学校生活アンケートを通して、早期発見・早期対応に繋がっている。今後も職員研修や相談体制を充実させていきたい。	A	A
	特別活動への積極的な取組	A	生徒・保護者ともに90%以上が学校行事や生徒会活動、部活動が活発・有意義に行われていることに肯定的に評価をしている。今後も生徒が主体的な活動ができるように環境を整えたい。	A	A
学校関係者評価委員会における意見		生徒指導の方針を明示し、基本的生活習慣及び規範意識等については、先生方の日々の継続した指導により良好な状況にあると捉えています。いじめ防止については、大人からの一方的な指導にとどまらず、子供たちにいじめについて考え話し合う機会を設けることが大切であると考えます。学校経営方針に「社会に貢献できる有為な人材の育成に努める」とあります。高校生による学習指導や部活動指導など、近隣の小中学校との連携が図れないか検討してほしいと思います。また、身近なことで社会に貢献できるのは挨拶の励行と考えます。校内はもとより学校周辺地域でも積極的にを行い、地域に元気を与え、泉高の更なるイメージアップを図ってほしいと思います。			
進路指導	自己理解と志教育の推進	A	適性診断、社会人講話、学年ごとの進路講演会を実施した。進路目標の明確化に関する適切な指導が行われていると考えている生徒は昨年度より2.9ポイント減少したが約92%いる。志を高く持たせるために、最先端の学問に触れさせる機会を提供し続けたい。	A	A
	系統的・組織的な進路指導の推進と研修の設定	B	各学年で何をすべきかの話し合いを深め、実際の行動に移させるための教員間の意思疎通を図りたい。また実質的な進路指導の時間を捻出するため、不要な書類や業務は省きたい。業者の模試分析ツールを教員が使いこなすための研修も取り入れたい。	B	B
	高い進路目標を達成できる柔軟な思考と強い意志の養成	B	生徒の学力差が大きく、授業のレベルをどこに置くのかに課題がある。国公立大や難関大に向けた取組を最後まで続けさせるべく指導をしているが、課外授業でのレベル別フォローも必要。課外に参加する生徒が減っているので、早めの周知をして参加意欲を高めた	B	B
学校関係者評価委員会における意見		定期的な個人面談（教科指導を含め）を年3回実施し、また、外部イベントへの参加案内も実施していることはとても重要と考えます。先生方が現在の学びと将来の進路との関連を生徒に意識づけさせることに努めていることが伺えます。外部講師や卒業生を招いての進路検討会を1・2年生でも実施するなど、早期からの進路指導が効果的であると考えます。オープンキャンパスや大学説明会への参加率が年々高くなっていると聞いています。大学等を直接見学することにより進路に関する意識が高まり学習意欲も飛躍的に向上すると考えています。今後とも学校側から生徒に積極的に働きかけ、参加を促してほしいと思います。			
保健・安全・防災	健康保持と体力増進	B	学校評価の項目「学校は生徒の安全や健康管理に積極的に取り組んでいる」では、保護者の90.5%、生徒の92.3%が肯定的な評価をしており、概ね達成できたと考える。今後も生徒の健康の保持増進及び衛生的な環境の維持に努めていきたい。	B	B
	交通安全意識の高揚と事故発生の未然防止	A	立ち番指導、周知や情報発信による取り組みが、生徒・保護者に理解され交通事故が10件と減少に繋がった。今後も継続して取り組んでいきたい。	A	A
	防災教育と避難訓練の充実	B	「防災訓練などを通して災害、非常時の避難方法や連絡方法を伝えられている」では、保護者90%、生徒90%が肯定的評価をしており、概ね達成できたものとする。今後も災害に対する意識を高めていきたい。	A	B
学校関係者評価委員会における意見		健康観察、衛生環境の整備等、日常的な点検活動等に努めることはとても大事なことで考えています。交通事故防止に向けた先生方の地道な取組によって安全意識が高まっているように思います。防災教育については、東日本大震災後14年を経過しているので、風化させないよう、語り部等の講話を聴かせるなど、命の大切さを生徒に考えさせる機会を設けてほしいと思います（在校生による講話は同窓会総会でも発表していただき高評でした）。			

3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題		改善方策
①	主体的に学習に取り組む姿勢の醸成と家庭学習の充実	I C Tの利活用について研修や先進校視察を行い、生徒それぞれの目標に合わせた個別最適化された学習環境を整え、生徒の学びをサポートする。
	③ キャリア教育と探究活動の連携充実	社会人講話を継続実施し、多様な価値観や職業観に触れる機会を多く与える。その延長としてN P Oや行政の協力を仰ぎ、フィールドワークを推進する。
④ 安心・安全な教育活動の推進		交通安全の早期指導と継続的な校外指導を実施するとともに、安全対策や防災に関する情報等を定期的にメールやホームページ等で保護者と共有する。